第 68 回 熊本県保育研究大会

開催要綱



熊本県保育協議会

令和 8 年度（第 68 回）熊本県保育研究大会　開催要綱

〔大会主題〕

すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして

１　趣　旨

国が公表した「保育政策の新たな方向性」に基づいて、「保育の量の拡大」から「質の高い保育の確保・充実」への転換がすすめられ、全国どこでも質の高い保育が受けられ、地域のすべての子どもの育ちと子育てが支援されるような取組が求められるなど、保育所・認定こども園等の役割や期待は大きくなっています。

このような中、保育現場では子どもたちの最善の利益を考え、日々の保育を振り返り、改善しながら、実践を積み重ねていく努力が続けられています。保育者は、子どもたちの「今」に寄り添い、豊かな成長を支えるために、一人ひとりが誇りと責任をもって向き合うことが求められています。

私たちは、こうした日々の実践をより深め、より良い保育を共に考えていくことが重要です。本大会は、実践の成果や研究成果を共有し合うことで、保育の専門性を高め、次世代へつながる保育の力を育むことを目的として開催します。

２　主　催

熊本県保育協議会

３　後　援

熊本県、熊本県社会福祉協議会、熊本県共同募金会

４　期　日

令和 9 年 1 月 29 日（金）

５　会　場

KKR ホテル熊本

熊本市中央区千葉城町 3-31

電話　096-355-0121

2 階「五峯・城彩」ほか

６　日　程

時間	内容
12:00～	受付（2 階ロビー）
12:30～	開会・表彰
12:45～13:15	行政説明「（仮）最新の保育政策の動向」 熊本県健康福祉部 子ども未来課（予定）
13:15～13:30	会場移動
13:30～16:30	分科会

※本大会では、参加者同士が日々の実践や研究を共有し、意見を交わしながら学びを深める分科会を大会の中心に位置づけます。

このため、従来の大規模な式典形式は見直し、開会及び表彰等は簡素な形式で実施します。限られた時間を分科会での学びや意見交換に重点的に活用することで、保育の専門性を高め、より充実した大会を目指します。

７　参加対象者及び参加定員

(1) 参加対象者

保育所・認定こども園等の役職員、県・市町村行政の保育関係職員、その他の保育事業関係者

(2) 参加定員

270 名

８　参加費

会員：1 人 7,000 円

非会員：1 人 14,000 円

※被表彰者についても、一般参加者と同様に参加費を徴収します。

※分科会の意見発表者については、参加申込み・参加費は不要です。

９　分科会

各分科会の詳細については、別記「分科会概要」をご覧ください。

〔分科会テーマ一覧〕

第 1 分科会	組織力・チーム力向上のためのマネジメント ～施設内の環境づくり、人材確保と育成・定着、施設長（管理者）の資質・変革等～
第 2 分科会	子育て支援・多機能化 ～地域と連携した子育て、地域のニーズに応える施設づくり～
第 3 分科会	子どもの育ちを保障する関係機関とのネットワーク ～保幼小、虐待対応、療育、地域等における連携～
第 4 分科会	すべての子どもの育ちを支える保育の質の向上、家庭支援 ～保育のブラッシュアップ・充実した家庭支援、食に関する支援を考える～

※分科会会場名は当日の資料・掲示等でご案内します。また、分科会会場ごとに参加定員を設定し、先着順で受け付けます。

※当該分科会が定員に達している場合は、申込サイト内で選択できません（表示されません）ので、あらかじめご了承ください。

10　熊本県保育協議会表彰について

(1) 表彰の対象及び実施方法

・永年勤続 10 年又は 15 年の方を対象に、顕彰規程に基づき表彰を行います。

・大会では、被表彰者の氏名を紹介し、代表者に表彰状を授与します。

・被表彰者の氏名等は、大会資料に掲載します。

(2) 表彰状の交付方法

・代表者以外の被表彰者への表彰状については、後日、各所属施設を通じて交付します。

(3) 表彰通知と出欠確認

・該当者には、表彰決定の通知とともに、大会への出欠及び分科会への参加の有無を確認する書類をお送りします。

(4) 参加費について

被表彰者についても、一般参加者と同様に参加費 7,000 円を徴収します。

11　大会参加申込について

(1) 申込方法

以下の URL 又は熊本県保育協議会ホームページの申込フォームから、12 月 18 日（金）までにお申し込みください。

熊本県保育協議会ホームページ「トップページ＞研究大会・研修＞熊本県保育研究大会」

申込フォーム URL： https://9c3d4cf9.form.kintoneapp.com/public/hoikukyo-conference

※フォームからの申込が難しい場合は、事務局までご連絡ください。

(2) 参加費の支払い方法

申込フォームの送信後、「申込完了メール」が指定アドレスに届きます。メールの案内に従って、期限までに参加費をお振込みください。

【振込期限】12 月 18 日（金）※振込後のキャンセルについては、返金できません。

【振込先】

肥後銀行 水道町支店　普通預金　口座番号：1221808

口座名義：熊本県保育協議会 会長 弥頭 幾久雄（ｸﾏﾓﾄｹﾝﾎｲｸｷｮｳｷﾞｶｲ ｶｲﾁｮｳ ﾔﾄｳｲｸｵ）

※振込手数料は参加者のご負担となります。

※振込時には、研修コード「0129」を振込人名義の前に記入してください。

〔記入例〕0129 クマモトホイクエン（研修コード＋施設名）

※文字数制限のため、法人名は省略し、施設名のみをご記入ください。

(3) 領収証について

領収証の発行は行いません。金融機関の振込控えを領収証に代えてご利用ください

(4) 分科会の選択について

分科会には定員があります。定員に達した場合は、申込フォームで選択できなくなりますので、ご了承ください。

(5) 宿泊について

宿泊の斡旋は行っておりません。必要な方は各自で手配をお願いいたします。

12　駐車場の利用について

会場の駐車場は、講師・関係者等専用です。

一般参加者はご利用いただけませんので、公共交通機関等をご利用ください。

13　個人情報の取扱いについて

申込フォームに入力された個人情報は、本大会の運営及び管理の目的以外には使用いたしません。

14　大会申込み・問合せ先

〔熊本県保育研究大会 大会事務局〕

熊本県保育協議会

〒860-0842　熊本市中央区南千反畑町 3-7

熊本県社会福祉協議会 施設団体支援課内 担当　上原・松村

電話　096-324-5462　　FAX　096-355-5440　　メールアドレス　hoikukyo@kumashakyo.jp

分科会概要

〔第１分科会〕　組織力・チーム力向上のためのマネジメント
～施設内の環境づくり、人材確保と育成・定着、施設長（管理者）の資質・変革等～

子どもや子育て家庭への多様な支援が保育所・認定こども園等に求められるなか、安全・安心な保育の提供や保育の質を高めるため、組織マネジメントは、職員の働きやすさや、やりがいに直結し、組織力・チーム力を向上させるために欠かすことができないものです。

保育所・認定こども園等においては、職員の就業形態や雇用形態の多様化とともに、働き方改革、ICT化がすすめられています。職員間の連携、チームワークの形成や、園全体としてのスキルアップとともに、働きやすい職場づくりに一層留意する必要があります。また、保育現場の魅力を発信しながら、人材の確保・育成に努めていく必要があります。

本テーマでは、保育所・認定こども園等の組織力・チーム力を向上させるマネジメントについて、施設長や現場の保育者等による様々な取り組みについて研究を深めます。

分科会メンバー(敬称略)

座　長　　**菅尾保育園　園長　武元　紘子**

助言者　　**九州ルーテル学院大学　教授　永野　典詞**

意見発表者①　あさぎりこども園　副主幹保育教諭　蟻田　夕香里

発表概要：

クラス目標に沿った課題、保育の振り返りの中での課題を情報共有や意見交換、助言を行い、課題に対してチーム全体で話し合い共有し取り組んできたことを発表します。

意見発表者②　和水町立神尾保育園　主任保育士　内島　可奈子

発表概要：

職員みんなで保育理念の見直しを行い共通理解することで、職員の声を取り入れた、子どもも大人も楽しめる柔軟な保育を目指しました。また、公立保育園だからできる、地域・役場との連携についても発表します。

意見発表者③　蓬莱保育園　園長　紫安　敬道

発表概要：

保育の質の向上には、職員一人ひとりの力を生かす組織づくりが重要です。園の現状を見つめ、管理者と職員の関係性や組織の在り方を考察し、マネジメントを通してチーム力を高め、子どもにとってより良い保育環境の実現を目指した実践について発表します。

〔第 2 分科会〕　子育て支援・多機能化
～地域と連携した子育て、地域のニーズに応える施設づくり～

保育所保育指針においては、保育所の役割として、保護者に対する支援と地域における子育て支援が明確に位置づけられています。また、幼保連携型認定こども園では、子育て支援の実施が義務付けられています。

令和 6 年度からは、地域子育て相談機関の設置が市町村の努力義務とされ、その役割が保育所・認定こども園に期待されています。地域のつながりが弱まるなか、子育てに孤立感や孤独感を深めている家庭へのアプローチが、とくに重要な取り組みとなっています。

本テーマでは、地域子育て支援における保育所・認定こども園等の機能や、保育者のもつ知識や技術を、いかに地域支援に活かしていくかなど、多機能化等による地域のこども・子育て家庭に対する支援のあり方について、研究を深めます。

分科会メンバー(敬称略)

座　長　　**みつる保育園　副園長　吉田　紘太**

助言者　　**平成音楽大学　音楽学部　未来創造学科　教授　宮﨑　由紀子**

意見発表者①　かおう保育園　保育士　上田　恵里

発表概要：

地域の方や高齢者、JA 青年部との交流を通して、子どもたちはさまざまな人と関わる経験を重ねています。交流の中で見られた子どもたちの姿や成長を振り返りながら、地域とつながる保育園の役割について発表します。

意見発表者②　西原村立にしはら保育園　主任保育士　北村　喜代美

発表概要：

これまでの地域交流を改めて見直し、どう深め・広げたかを実践しました。子どもたちの成長、保護者の安心や地域の元気につながる心温まる豊かな広がりと、これからの持続可能な関わり方について考察したことを発表します。

意見発表者③　青空保育園　保育教諭　松村　友香里

発表概要：

過疎化の進む町にある園が、長期的に地域応援の中心となるとともに、地域を巻き込んで「共に育ちあい、元気になれる」活動を子どもの主体的な力で計画してみようと考えました。その挑戦していくプロセスを発表します。

〔第3分科会〕　子どもの育ちを保障する関係機関とのネットワーク
～保幼小、虐待対応、療育、地域等における連携～

子どものより良い育ちにむけ、保育所・認定こども園等と小学校、さらに中学校との連携は、子ども一人ひとりの成長を連続的にとらえる視点として重要です。

令和5年2月には、文部科学省初等中等教育分科会のもとで「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」が取りまとめられました。取りまとめにおいては、5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」として、保幼小の関係者はもとより、家庭、地域、関係団体、地方自治体など、子どもに関わるすべての関係者が立場を超えて連携・協働することが必要とされています。

また、子ども・子育て制度では各市町村で策定された「子ども・子育て支援事業計画」に基づき事業実施が行われ、各地域の保育施策の充実化にむけては、社会福祉法人をはじめとする保育・子育て支援関係者と各地域の行政機関等との連携や、信頼関係の構築もいっそう大切となります。

児童虐待予防、子どもの貧困に起因する課題への対応、病児・病後児保育、医療的ケア児の支援、さらには災害対応など、保育所・認定こども園等単体のみならず、地域の関係各機関と連携・協働をもってすすめるべき取り組みは多くあります。

本テーマでは、子どものより良い育ちにむけた、多様な機関との連携・協働のすすめ方や保育所・認定こども園等が果たすべき役割などについて研究を深めます。

分科会メンバー(敬称略)

座　長　　**山鹿保育園　園長**　　**下田　アイ子**

助言者　　**熊本大学**　　**教授**　　**矢野　潔子**

意見発表者①　千丁みどり保育園　保育士　濱田　智恵

発表概要：

子ども一人ひとりが自己発揮できる環境について、ペアレントトレーニングを取り入れた実践を通して、園、保護者、専門機関、地域との関係づくりに取り組んだことを発表します。

意見発表者②　東部幼光保育園　保育士　津原　薫

発表概要：

「分かっているけど、やってしまう」5歳児の姿から、行動の背景や思いを丁寧に捉え、主体的な保育活動や自然体験を通して育ちを支えてきました。園・保護者・療育機関・学校等がつながり、連携に取り組む過程と、就学へつなぐネットワークの在り方を発表します。

意見発表者③　八千把こども園　保育教諭　柳田　美玖

発表概要：

子どものより良い育ちのために当園がある地域にはどのような発達支援の機関や役割があるのかを調査し、家庭支援や一人ひとりの状況に応じた支援のフォローアップ体制を充実させるための取組について発表します。

〔第 4 分科会〕　すべての子どもの育ちを支える保育の質の向上、家庭支援
～保育のブラッシュアップ・充実した家庭支援、食に関する支援を考える～

保育所・認定こども園等の大きな役割は、子ども自身が持つ発達する力を活かすことができるよう支援し、子どもの育ちを保障することにあります。また、子どもが心身ともに豊かに成長するためには、子どもと家庭を一体的にとらえて、その過程を支援することも必要です。

さらに、こども未来戦略の 3 つの基本理念においては、「社会全体の構造・意識を変える」ことが明記されており、子どもたちが豊かに育つ環境を社会全体が支えていく仕組みが求められています。

すべての子どもたちの育ちを支える質の高い保育について、さまざまな観点から研究を深めます。

分科会メンバー（敬称略）

座　長　　宮原保育園　　園長　　室原　由美

助言者　　熊本学園大学　　准教授　　上原　真幸

意見発表者①　さくらんぼ第二保育園　主任保育士　赤星　裕美

発表概要：

日頃の生活や遊びの中で、子どもたちのつぶやきから生まれた食育を通して、子どもたちの食への興味・関心がどう育まれていくのかを発表します。また、離乳食を進めていくうえで欠かせない「保護者との連携」についての実践とその成果について発表します。

意見発表者②　浦和保育園　保育士　倉田　由紀

発表概要：

家庭環境や生活スタイルの多様化により子どもの食経験や食への関心に差があります。また、園で行っている食育活動についても十分に伝わっていないように感じました。そこで【ひと家庭一つプランター栽培】の実践とその成果について発表します。

意見発表者③　大矢野たから保育園　主任保育士　山﨑　知仁

発表概要：

食への関心が薄い子どもたちに、野菜作りや米作り、収穫・調理など、さまざまな体験を通して、食べ物の大切さやありがたさを伝えています。家庭や地域との交流も深めながら、自分で育てたものを味わう喜びを経験し、「美味しい」と感じる心を育む実践について発表します。